

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 16年1月～原油安で貿易黒字(季節調整値)が拡大

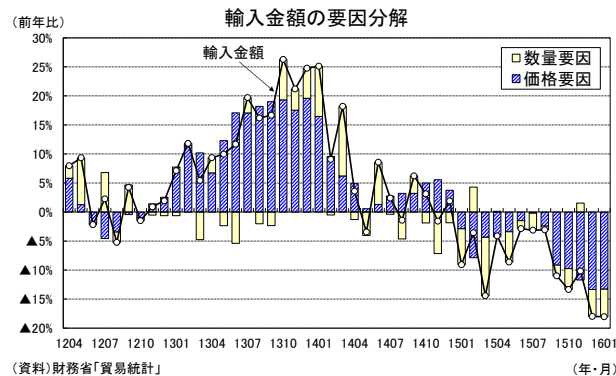
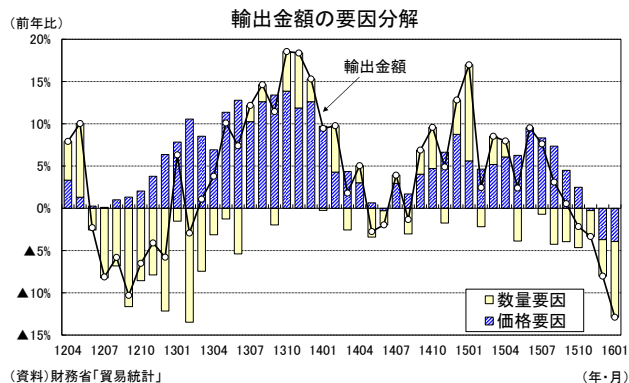
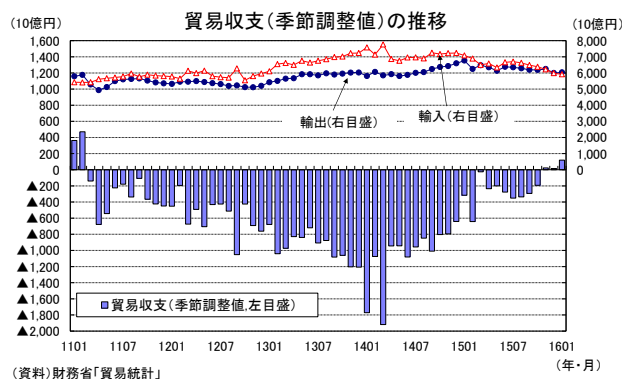
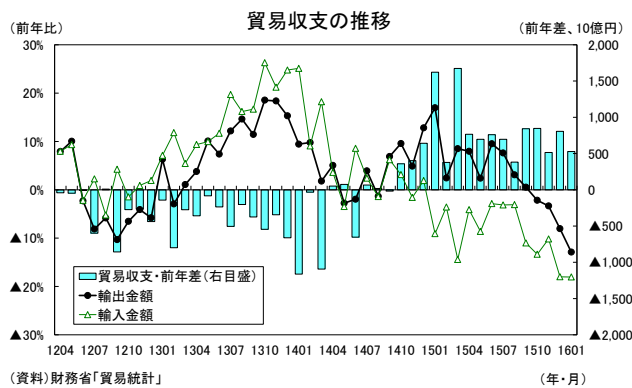
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 季節調整値の貿易収支は3ヵ月連続の黒字

財務省が2月18日に公表した貿易統計によると、16年1月の貿易収支は▲6,459億円と2ヵ月ぶりの赤字となり、ほぼ事前の市場予想(QUICK集計:▲6,802億円、当社予想は▲4,774億円)通りの結果となった。輸出は前年比▲12.9%(12月:同▲8.0%)と減少幅が拡大したが、輸入が前年比▲18.0%(12月:同▲18.0%)と輸出の減少幅を上回ったため、貿易収支は前年に比べ5,278億円の改善となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲9.1%(12月:同▲4.4%)、輸出価格が前年比▲4.1%(12月:同▲3.8%)、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲5.1%(12月:同▲5.0%)、輸入価格が前年比▲13.6%(12月:同▲13.7%)であった。



原数値の貿易収支は2ヵ月ぶりの赤字となったが、1月はもともと正月休みの影響で輸出量が少

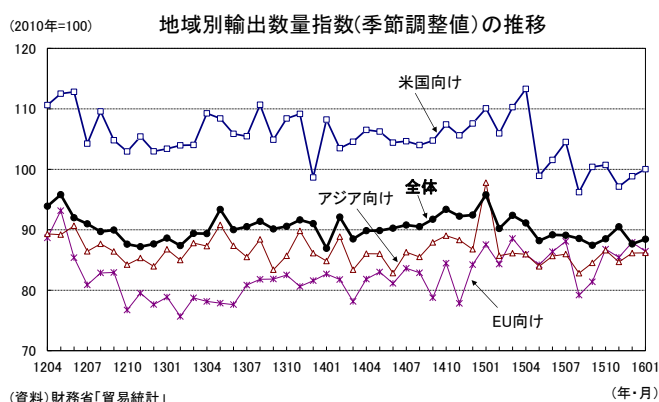
なく貿易赤字になりやすいという季節性がある。季節調整済の貿易収支は1,193億円の黒字となり、12月の153億円から黒字幅が大きく拡大した。輸出が前月比0.6%と小幅な増加となる一方、原油安の進展を反映し輸入が同▲1.1%と6ヵ月連続で減少した。

原数値の貿易収支は15年9月から赤字と黒字を繰り返しているが、貿易収支には季節性があるため、実勢を判断するためには季節調整値を用いることが適切である。実態としては15年11月に東日本大震災以降初の黒字となった後、3ヵ月連続で黒字になったとみることができる。

2. 輸出数量は横ばい圏の動き

1月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲8.4%（12月：同▲8.3%）、EU向けが前年比▲1.1%（12月：同5.0%）、アジア向けが前年比▲11.9%（12月：同▲0.8%）となった。アジア向けの落ち込みが特に大きくなったが、前年1月が前年比15.4%の高い伸びとなった反動の影響も考えられる。1月、2月は春節の影響で振れが大きくなりやすいため、2月の結果と合わせてみる必要があるだろう。

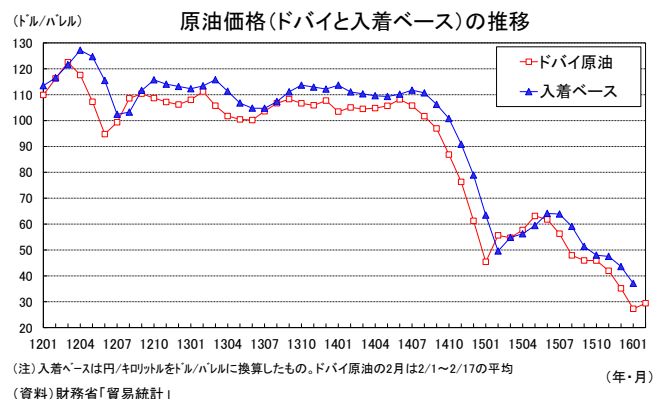
季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比1.2%（12月：同1.8%）、EU向けが前月比▲1.7%（12月：同2.9%）、アジア向けが前月比0.0%（12月：同1.7%）、全体では前月比0.9%（12月：同▲3.1%）となった。月々の振れを均してみれば、いずれの地域向けも横ばい圏の動きが続いている。



3. 貿易黒字はしばらく続くが、定着の可能性は低い

1月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=37.1ドル（当研究所による試算値）となり、12月の43.6ドルから低下した。足もとのドバイ原油は30ドル前後で推移しており、通関ベースの原油価格も2月には30ドル程度まで低下することが見込まれる。原油価格下落に伴う輸入価格の大幅低下を主因として貿易収支（季節調整値）の黒字幅はさらに拡大する可能性が高い。

ただし、当研究所では原油価格が徐々に持ち直すことを想定しており、円高の進展、中国をはじめとした海外経済の減速などから輸出は当面横ばい圏で推移すると予想している。このため、貿易黒字はしばらく続くものの、それが定着する可能性は低いと考えている。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。